慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	編集後記 奥付
Sub Title	
Author	白石, 孝
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1952
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.45, No.4 (1952. 4)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19520401-0077

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

及び法則を檢討する研究分野であり」、特にその研究の焦點は「配給の制度的機構、その多少とも技術的側面、配給機關の型、價格形成、配給機能、政策、經路等々」の點におかれるであろう。しかもそれは價格・經營規模等の點では經濟學と、購買選擇の理論的根據の點では心理學と、消費樣式の點では社會學と、その他種々の點で種々の科學と交渉關聯をもつ。從つて配給科學の發展は、配給學者のみならず、その他關係諸科學の研究者の協同によらざるをえない。配給面におけるかかる綜合的研究が展開せられたならば、やがては配給に關する包括的研究が著述として生れることをも期待しえよう。そしてその研究が從來のそれと異る點は、主として「觀點と研究方法」の點において である。卽ちその「觀點は技術的乃至制度的な面よりも一層廣汎な問題に智識を應用する點において、その研究方然は單なる事實の記述に終ることなく完全な理論的考察を通じて行わんとする點にその特色が見られよう」。そして又そこに出來上つたものは、原理及び法則の統合的記述であり、「配給狀態及び活動を廣汎な視野において說明する」に十分なものであろうと。

筆者は既に本誌四十五卷第二號において同敎授の論說「配給論の發展に及ぼせる諸影響」の紹介を試みたのであるが、そこにおいてアメリカ配給學界の新動向にも若干ふれるところがあつた。たしかに今日迄の配給論の研究は多く配給の技術的側面の研究に終始し、そしてそれは亦配給論のオーソドックスな研究態度として廣く一般にも認められて來たところである。しかしながらそれは配給を私的企業の個別的活動として理解する限り、又配給がそれ以上の意義をもちえない段階においてのみ意味をもちうるのであつて、配給が經濟社會において重要な機能を果し、私的企業の問題としてよりはむしろ社會經濟上の問題としての性格を一層强くもつに至つた今日の段階においては、配給論は古い技術論としての傳統の殼からの脫皮が何にも增して强く要請せられるのである。事實今日アメリカの配給學者間における共通の問題の一つは「配給論と科學は如何に關聯するか」という疑問に解決を與えることであると言われている。これは明らかに配給論をバートルズ敎授の言うごとく「一層廣汎な基礎の上に再編成」せんとする志向の表現として理解しうるのではなかろうか。戰後に現れた斯る方面の研究は決して少くないが、その最も代表的なものとしてはカンサス大學シーリー敎授の論說 The Importance of Economic theory in Marketing Courses (The Jaurnal of Marketing Vol. II. No. 3) が擧げられよう。そして筆者は戰後のアメリカ配給學界のかかる一連の動きを配給經營論から配給經濟論への展開として理解しようとするのである。

編集後記

J・ラスキはその好著「現代革命の考察」において、現代の主要な特徵は安定感の缺除であり、確信のない恐怖がいかに合理的判斷の能力を麻痺させるか、また、眞先に一擊を加えた者のみが安全だという氣狂いじみた行爲をつみ重ねてゆくかを說き、平和の維持はこの不安定や恐怖の根源を發見し、その缺陷を是正し得るような新しい社會の均衡を見出すにかかつていると主張した。實際近頃の日本は過去の激しい敎訓にめざめたようで、決してかかる妄想をぬぐいすてたとは思われない。街頭には依然その古い妄想に躍る人々が時代の不安定感と恐怖感をあほつている。まさに危險な時である。

三田學會雜誌も復刊以來多大な困難を押しきつて發行しつづけて來た。この四月から新入學生諸君の全員に配布することとなつたが本塾に學ぶ學生諸君が勉學に一層の刺戟と研究の基點を得られるならば幸いであると共に、あらゆる妄想に理性の光を投ずる一助となれば望外の喜びである。

（白石　孝）

昭和二十七年三月二十五日印刷
昭和二十七年四月一日發行
第四十五卷
第四號

本號　定價　七拾圓
送料　四圓

載轉禁

編輯兼發行者　東京都港區芝三田慶大經濟學部內　高村象平
印刷者　東京都港區芝三田豐岡町八　川口芳太郎
印刷所　東京都港區芝三田豐岡町八　圖書印刷株式會社

豫約購讀料一年分　金八四〇圓（送料共）
半ヶ年分　金四二〇圓（〃）
豫約購讀料は發行所宛お拂込み下さい。
誌代變更の場合は精算決濟致します。
編集に關する用件、營業に關する用件、販賣申込も發行所へ願います。

發行所　東京都港區芝三田二丁目　慶應義塾大學經濟學部研究室內
慶應義塾經濟學會
日本出版協會員B一一一〇一六